

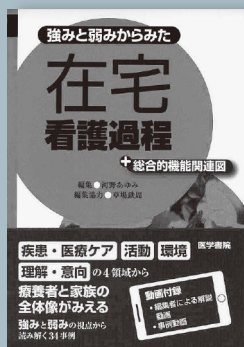
今月の 新刊紹介



精神科の薬がわかる本 第4版

著：姫井昭男
発行：医学書院
定価：本体 2200 円＋税

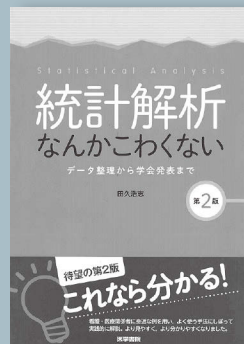
好評定番書の改訂版。基本コンセプトはそのままだに、オールカラーでよりわかりやすく見やすく刷新。本版の役割は「あらゆる人にとって、精神科の薬の必要最低限の、間違いない知識を伝えること」。ネット上に氾濫する情報に惑わされず、精神科の薬と上手に付き合いたい人必携。



強みと弱みからみた 在宅看護過程 + 総合的機能関連図

編集：河野あゆみ
編集協力：草場鉄周
発行：医学書院
定価：本体 3800 円＋税

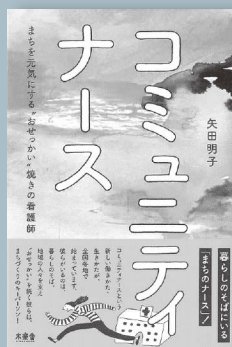
大人気「からみた」シリーズに在宅看護がついに登場。患者と家族の全体像を疾患・医療ケア、活動、環境、理解・意向の4領域から捉え、訪問看護の強みと弱みの両方の視点から看護課題を分かりやすく解説。健康障害、患者・家族の心理・社会的課題を典型事例の看護過程の展開で提示。



統計解析なんかこわくない 第2版

データ整理から学会発表まで
著：田久浩志
発行：医学書院
定価：本体 2400 円＋税

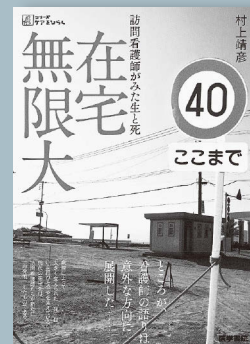
看護、医療関係者がよく使う統計解析の手法にしぼり、臨床で集めたデータを使った身近な例題を、Excel の画面を用いてわかりやすく解説。まずは多くの研究領域をカバーできる「2 試料 χ^2 検定」「対応のない t 検定」「対応のある t 検定」から。苦手な人が多い統計解析も、この 1 冊で好きになる。



コミュニティナース まちを元気にする “おせっかい”焼きの看護師

著：矢田明子
発行：木楽舎
定価：本体 1500 円＋税

コミュニティナースは、看護の専門性を活かしながら、制度にとらわれることなく、まちに出て自由で多様なケアを実践する医療人材のこと。著者はその活動を 1 人で始め、育成講座を開き 130 人を超えるコミュニティナースが誕生している。気軽に体や暮らしにまつわる相談ができる“おせっかい”ナースがいたら、まちは元気になる。



〈シリーズ ケアをひろく〉 在宅無限大 訪問看護師がみた生と死

著：村上靖彦
発行：医学書院
定価：本体 2000 円＋税

病院によって大きく変えられた「死」は、いま再びその姿を変えている。先端医療が組み込まれた「家」という未曾有の環境の中で、訪問看護師たちが地道に「再発明」したものである。著者は並外れた知的肺活量で訪問看護師の語りを生け捕りにし、看護が本来持っているポテンシャルを言語化する。「看護がここにある」と確かに思える 1 冊。



残業学 明日からどう働くか、 どう働いてもらうのか?

著：中原淳、パーソル総合研究所
発行：光文社
定価：本体 920 円＋税

パーソル総合研究所と中原淳氏の共同研究「希望の残業学」プロジェクトを書籍化。超高齢化社会を迎え、あらゆる仕組みをアップデートする必要に迫られている日本で、多様な人々の力が鍵となる中、それを拒む最大の障壁が日本独特の働き方「残業」である。2 万人を超える調査データを分析し、あらゆる角度から徹底的に残業の実態を解明。